

陸前高田発

陸前高田から鎮魂の祈り

阪神・淡路大震災の発生から23年にあわせて、東日本大震災の被災地・陸前高田市からも鎮魂の祈りがささげられました。陸前高田市小友町の気仙大工左官伝承館には神戸市のモニュメント「1. 17希望の灯り」から火が分けられた「3. 11希望の灯り」があります。阪神・淡路大震災の地震が起きた午前5時46分に市民20人が黙祷を捧げました。集まった人たちは、2つの震災の記憶を語り継いでいくことを誓っていました。(1/17 ニュースエコー)



陸前高田市小友町の気仙大工左官伝承館には神戸市のモニュメント「1. 17希望の灯り」から火が

釜石発

最後の復興住宅 着工

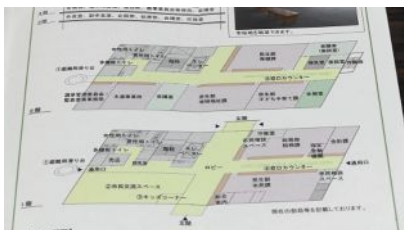
釜石市が県とあわせて1316戸整備する復興公営住宅のうち最後となる浜町の建物工事が始まりました。この集合住宅型の復興住宅は土地の造成に時間がかかり、計画から2年遅れての建設開始となりました。海から200mほど離れた海拔7mのかさ上げ地に建てられる鉄筋コンクリート造りの5階建ての建物には31戸が入ります。完成は今年12月の予定です。(1/19 ニュースエコー)



陸前高田発

新庁舎の詳細イメージ図

陸前高田市が小学校の跡地に新築する7階建ての市役所の具体的なイメージが市議会全員協議会で示されました。来客用駐車場は被災した旧市役所の倍以上の123台を確保します。また1階には市民の利用が多い市民課や税務課のほか市民交流スペースやキッズコーナー、7階には市街地を望む展望ロビーを配置します。事業費はおおよそ50億円でそのうち震災復興特別交付税と返済額の7割を国が支援する被災施設復旧関連事業債で48億円をまかないます。(1/22 ニュースエコー)



大槌発

「鎮魂の森」検討委員会

津波犠牲者の霊を慰め津波の恐ろしさを伝えようと大槌町が整備を計画する「鎮魂の森」のあり方を検討する委員会の初会合が開かれました。町は津波で浸水した大槌川と小鎚川の河口付近の2ヘクタールの土地に公園などからなる「鎮魂の森」を防潮堤が完成する2019年10月以降に着工する計画で、全国から2億3000万円あまりの寄付金が寄せられています。(1/29 ニュースエコー)



陸前高田発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

陸前高田災害FMの菅野陽子さんが、「ちーむ麻の葉」の活動について伝えてくれました。この団体は、震災後、仮設住宅に住んでいる高齢者が「手や頭を使って気を紛らわす」ことのできる方法として、タオルを小さいドレス風に縫って手拭きにする「ドレスタオル」の製作や和服をリメイクした小物の製作、販売などを行っていて、現在30代から80代まで12名が活動しています。代表理事の大和田加代子さんは「今後はオリンピック、ラグビーワールドカップに向けて和服リメイクを発展させたい」と話しているということです。(1/24)

大船渡発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

大船渡「FMねまらいん」の及川透子さんが、「大船渡市の恋愛に関するスポット」を教えてくださいました。まずは三陸町綾里にある【恋し浜駅】ここは三陸鉄道・南リアス線の駅で、駅舎の中にはホタテ絵馬に願い事を書いて掛けられるようになっているほか、近くにはピンクのポストがあり、そこから手紙を届けると恋愛が成就すると言われていました。また末崎町にある碁石埼灯台は、恋人同士が訪れたいような美しい景色のため「恋する灯台」のひとつに選ばれています。及川さんは「バレンタインなどには、ぜひカップルやご夫婦で大船渡に遊びに来て下さい」と話していました。(1/31)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIB公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122